



いたばし花火大会での夕べ

安部 花子

8月2日、いたばし花火大会に参加しました安部と申します。台風発生の影響により当日まで開催可否が分からぬような状況でしたが、当日の朝10時、開催決定の表示を公式HPで確認し、喜び向かった花火大会でした。

ロシア大使館からは約60名の方が参加され、今年も1万5000発の花火が荒川の夜空を彩る「いたばし花火大会」を始まりから終わりまで全て鑑賞することができました。昨年はモスクワへの留学試験に受かった友人から前日に誘いを受けて参加しましたが、今年は前もって約束していたため、台風が早めに過ぎ去ってくれたことに一安心でした。

今年もその友人が日本に一時帰国しているため、一緒に日向寺専務理事が前日から場所取りをして下さっていた広大なブルーシートの集合場所へと向かいます。集合場所に到着すると、既に多くのロシア人参加者が座っていて、遠目からでも非常に分かりやすい(笑)。料理教室やそのほかのイベントに参加した際に見かけた顔ぶれも多く、一緒に写っている写真を見せながら「ズドラーストヴィチエ！」と声をかけると、向こうも私のことを思い出してくれたようで、「コンバンワ～！」と返してくれました。

集合場所に到着するまではとにかくすごい人混みで、屋台はたくさん出ているものの既にどれも行列ができるおり買い物もできないことは昨年の参加時に学習済み。横浜が世界に誇るペリメニ、崎陽軒のシウマイを横浜より持参しみんなで分け合って食べました。前日の夜のうちに過ぎ去った台風が大気の不純物を全て洗い流してくれたのか、雲の切れ間から真っ赤な夕焼けが美しく輝いており、ロシア人参加者たちもたくさん写真を撮っていました。

予定の19時から数分遅れて花火の第一発目が打ちあがり、花火大会がスタート！打ちあがったとたん、参加者一同から歓声が上がります。戸田市側の河川敷と板橋区側の河川敷、どちらからも同時に高さのある花火が打ちあがるため縦幅も横幅も広く、スマホを縦にすれば良いのか横にすればよいのかパニックになる私を尻目に、高性能ビデオカメラで優雅に撮影するロシア人参加者の姿が。きっとこの日を楽しみにして準備してきたのだと思います。

日本での花火大会の由来は、江戸時代に飢饉や疫病で亡くなった魂を弔うことからはじめましたが、ロシアにおいては花火大会という伝統はなく、5月の戦勝記念日や6月のロシア記念日、新年を迎える元旦など、国的重要な祝日にお祝いの意味をこめた「祝砲」としての役割をもつものだそうで、10～15分程度の花火を打ち上げるそうです。しかしながら、近年はモスクワを含むロシア全土で軍事行動や絶え間ない砲撃が続いていることから、防空軍の負担を減らすために花火の打ち上げは中止になっているとのことです。今回これだけの数のロシア人参加者が集まつたのには、そういう背景もあるかもしれません。

夜空に幾重にも重なる大輪の菊の花、散り際にチラチラと煌めきながら消えていく柳、ニコニコマークや桜の花をかたどった色とりどりの花火。いつか新年の赤の広場で、日本が誇る花火師たちの匠の技をモスクワ市民と一緒に2時間たっぷり鑑賞できるような日がくれば…。ロシア留学中の友人に一週間前から場所取りするようお願いしようと思います。